

『働きものの神様』 ヨハネの福音書 5章9～18節 2017.7.16(聖日礼拝説教より)

『イエスは彼らに答えられた。「わたしの父は今に至るまで働いておられます。ですからわたしも働いているのです。」』 ヨハネの福音書5章17節

人生においてキリストが誰なのかを知り、その働きが何であるかを知ることが何よりも大切！

①安息日の主…イエス様が、38年もの病に苦しむ人を癒された時、ユダヤ人たちは『今日は安息日だ！床を取りあげてはいけない』と批判した！彼らは宗教活動に真面目で熱心で、愛から遠かった！最大の罪は、「形だけ」守って、目的を忘れたこと！**◆安息日の目的**…第四戒「安息日を覚えて聖とせよ」とは、安息日に神の業をほめたたえること！目的は「(労働)しないこと」ではなく「(礼拝)すること」！そのための「休み」は、奴隷も自由人も、牛、ロバ、全ての家畜まで…皆平等！命あるもの全てが安息し、神の恵みに感謝し、喜びを分かち合う！『あなたは、いろいろなことを心配して、気を使っています。しかし、どうしても必要なことは…一つだけ(ルカ 10:41～42)』にある「必要な一つ」とは、神と人とが互いに愛し合うこと！★大切なのは、「形」ではなく目的！礼拝には出たが「礼拝した」だろうか？賛美歌は歌ったが、「賛美した」だろうか？聖書のお話は聞いたが、「御声を聞いた」だろうか？**◆破られた神の安息**…天地万物の後、アダムとエバが、悪魔の誘惑に負けて罪を犯した時、神の喜びと満足の安息は破られた！『…彼らは園を歩き回られる神である主の声を聞いた…「あなたは、どこにいるのか」(創世記 3:8～9)』。あの日以来、神に休みはない！悪を罰し、罪を滅ぼし、全ての人を滅びから救うために『今に至るまで働いておられる！』、だから御子も働き続ける！『人の子は安息日にも主！』とは、悪を滅ぼし、人を生かす神の働きは年中無休、不眠不休の意。

②光のある間に(17節)…イエス様は言われた。『わたしたちは、わたしを遣わした方のわざを、昼の間に行わなければなりません。だれも働くことのできない夜が来ます。わたしが世にいる間、わたしは世の光です(ヨハネ 9:4～5)』。罪の闇を照らす光として来られたイエスが私たちを選び、罪の重荷を降ろさせ、愛を伝える者として遣わされる。その業は、『…すべての敵をその足の下に置き…最後の敵である死も滅ぼし…神が、全てにおいて全てとなられる(I コリント 15:25～28)』まで続けられる！つまり世の人々が、『何があっても自分たちを愛されるお方が全て！』と思えるようになるまで続く！

★今週、この神の愛に招かれ結ばれた私たちが、誰かの心に愛と希望の光を灯せますように！